

保護者等向け 放課後等デイサービス評価表

2021年1月集計

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見
環境・ 体制整備	1. 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか。	9	1			
	2. 職員の配置数や専門性は適切であるか。	8	1		1	
	3. 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか。	7			3	
	4. 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子どもたちの活動に合わせた空間となっているか。	8	1		1	
適切な 支援の 提供	5. 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか。	7	1		2	
	6. 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	1		2	
	7. 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか。	8	2			
	8. 活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか。	9	1			
	9. 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか。	7			3	
保護者 への 説明等	10. 運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか。	10				
	11. 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか。	8	1		1	
	12. 保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか。	8	1		1	
	13. 日頃から子どもの状況を保護者と伝えあい、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか。	10				送迎時に毎回取り組みの様子を報告してくださるのでありがたい。
	14. 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか。	5	2			関係機関（竹重病院等）と連携して同じ支援を提供して下さりありがたい。
	15. 父母の会の活動の支援や保護者会の開催等により、保護者同士の連携が支援されているか。	4	1		2	
	16. 子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知、説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか。	5	2			
	17. 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか。	8			2	連絡帳での情報共有が助かっています。
	18. 定期的に会報やウェブサイト等で活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか。	8			2	
	19. 個人情報の取扱いに十分注意されているか。	7	1		2	

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見
非常時等の対応	20. 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	9			1	
	21. 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか。	9			1	
満足度	22. 子どもは通所を楽しみにしているか。	10				季節ごとに異なる長期休みのイベントを特に楽しみにしています。
	23. 事業所の支援に満足しているか。	9	1			ありがとうございます。 今後も精一杯務めさせていただきます。

- i 本人に分かりやすく構造化された環境：この部屋で何をするのかを示せるように、机や本棚の配置など、子ども本人に分かりやすくすること。
- ii 児童発達支援：児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。これは、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。
- iii 活動プログラム：事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障害の特性や課題等に応じて柔軟に組み合わせられて実施されることが想定されている。
- iv ペアレント・トレーニング：保護者が子どもの行動を観察して障がいの特性を理解したり、障害の特性を踏まえた褒め方を学んだりすることにより、子どもが適切な行動を獲得することを目標とします。